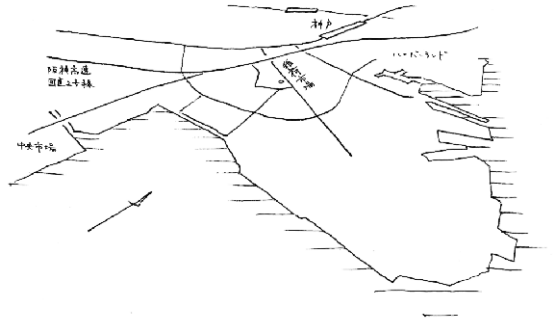


まちのレシピ その①

まちをつくるには建築だけではありません。コミュニケーションも大切な要素のひとつ。
今回は、そんなまちづくりの「きっかけ」となる方法をご紹介します。
文・写真=赤松麻衣 ももしし広報担当



1 今回のお題

きっかけの
つくり方

住みコミプロジェクト

2 はじめに

阪神・淡路大震災で被害を受けた神戸市兵庫区入江地区。ここを舞台に、神戸芸術工科大学卒業生の三宗匠（現・同大学大学院生）は、2003年10月、「住みコミュニケーションプロジェクト」を開始しました。震災の影響は今も残り、高齢化した入江地区は空洞化。しかし、ここには人々が声を掛け合って暮らす下町風情があります。そんな暮らしに魅力を感じる若者が空きスペースに住み込む。そして、ただ住むだけでなく、まちの人々と楽しくコミュニケーションをとろう、というのがプロジェクトの始まりです。

3 まちのようす



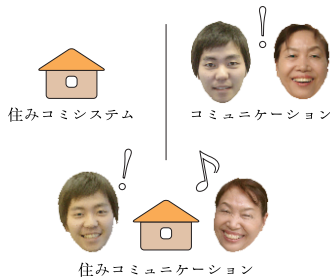
稲荷市場は1949年に創立されました。まわりは住宅が立ち並び、細い路地が多数あります。すぐ隣の松尾稲荷神社に、神戸の「ピリケン」さんが祭られています。

4 システム

改修できそうな物件を発掘するためにまちを探訪します。見つけたい現状確認を行い、「住みコミスト（住み込む人）」の募集をします。それらが決定すると、家主さんとのお見合いを設けます。これは互いの「ワガママ」を了承しあう場です。契約が締結されると、「住みコミ」生活がスタートします。

現在、了承済みのものは「露台の家」、「天窓の家」、「チカちゃんハウス」の3物件。プロジェクトは「住み友（工事の協力者）」や、「住みコメンテーター（工事の助言・援助者）」など、まちの人々によって支えられています。

5 システムの流れ



空き物件を見つけたらすぐに現状確認をします。「住みコミスト」と家主さんとのお見合いが成立したら、修繕開始。まちの人たちも工事に協力してくれます。

6 お見合いシステム



契約締結までにはお互いの「ワガママ」を了承しあわなければなりません。お見合いの場を設け、それらが受け入れられれば両思い。「住みコミ」が始まります。

6 ワガママ集

	家主さん	スミコミスト
チカちゃんハウス	木工家具を作っ てほしい	猫を飼いたい
露台の家	御近所と仲良く して下さい	ペットを飼いた い
天窓の家	住める様に改装 して下さい	安く住みたい 改装したい

両思いになった3物件の「コピコピ」。住みコミストの共通点には、「家賃が安く自由に改装できること」。家主さんの共通点には、「市場を利用すること」です。

7 できあがり



市場にある「チカちゃんハウス」。改装が済み、住みコミ始めました。1階を事務所として使用。「住み友」の大井義和さん（左）は毎日遊びに来てくれます。

8 よこく

これまでに両思いになった3物件は、すでに改装工事が進んでいます。7月には「チカちゃんハウス」が無事完成しました。

ここは、市場の会長で「住みん所さん（住みコミ物件の近所に住む人）」の大畑守人さんに紹介してもらいました。築50年で、以前は韓国料理屋さんでした。地下があることから、「チカちゃんハウス」と名付けられました。1階は『ももしし』事務所と家主さんの「ワガママ」である工房として利用。2階は「住みコミスト」の住まいです。来月号から『チカちゃんハウス』のレシピを紹介します。